



難民を守る。難民を支える。  
国連UNHCR協会

# 難民映画祭

REFUGEE FILM FESTIVAL

---

# PARTNERS

2025年開催報告書

## 目次

<a href="#">早稲田大学系属早稲田実業学校 難民支援セミナー</a>	3	<a href="#">公益財団法人あいち男女共同参画財団</a>	19
<a href="#">青山学院大学総合文化政策学部</a>	4	<a href="#">創価大学（共催：ASPIRE SOKA／創価大学パン・</a>	20
<a href="#">広島市立大学国際学部</a>	5	<a href="#">アフリカン友好会）</a>	
<a href="#">東海大学国際学部</a>	6	<a href="#">瀬戸内市</a>	21
<a href="#">明星中学校・高等学校</a>	7	<a href="#">大丸有SDGs ACT5</a>	22
<a href="#">神戸女学院大学国際学部</a>	8	<a href="#">静岡県立大学大学院国際関係学研究科附属グローバ</a>	23
<a href="#">順天堂大学 国際教養学部（FILA）</a>	9	<a href="#">ル・スタディーズセンター（CEGLOS）</a>	
<a href="#">法政大学グローバル教育センター</a>	10	<a href="#">札幌市、特定非営利活動法人 国連UNHCR協会</a>	24
<a href="#">富山大学 地域連携推進機構 地域連携戦略室</a>	11	<a href="#">（一社）Robo Co-op・（一財）島前ふるさと魅力化</a>	25
<a href="#">神田外語大学ボランティアセンター</a>	12	<a href="#">財団・海士町</a>	
<a href="#">上智大学</a>	13	<a href="#">関西学院大学 人権教育研究室</a>	26
<a href="#">公益財団法人せたがや文化財団・世田谷区（共催）</a>	14	<a href="#">明星大学国際コミュニケーション学科「映像翻訳」</a>	27
<a href="#">名城大学外国語学部・宮下ゼミ企画</a>	15	<a href="#">市邨学園名古屋経済大学市邨高等学校</a>	28
<a href="#">文京区</a>	16	<a href="#">明治学院大学</a>	29
<a href="#">イグローバルンパクト ソーシング コンソーシアム</a>	17	<a href="#">東洋学園大学川口ゼミ3年</a>	30
<a href="#">(GISC)(一般社団法人WelcomeJapan内組織)</a>		<a href="#">愛知学院大学文学部英語英米文化学科</a>	31
<a href="#">成蹊学園サステナビリティ教育研究センター</a>	18	<a href="#">愛知大学国際コミュニケーション学部</a>	32

# 難民映画祭パートナーズ上映会 in 早実

上映作品：『戦火のランナー』

開催日：2025年1月25日（土） 13時～16時

会場：早稲田大学系属早稲田実業学校 小室哲哉記念ホール

主催：早稲田大学系属早稲田実業学校 難民支援セミナー

協力：早稲田大学系属早稲田実業学校

国分寺マルイ セレオ国分寺 ミーツ国分寺

早稲田実業学校早実セミナー（高2総合）「難民支援セミナー」は、1月25日（土）に本校小室哲哉記念ホールにて『戦火のランナー』の上映会を行いました。企画・運営にあたったのは、高等部2年の19名の生徒たちです。当日は、上映前に生徒から「難民とは」「スーダン内戦について」を解説し、上映後にゲストとして天沼耕平氏（国連UNHCR協会）をお招きして、「難民選手団について」「早稲田大学と東京五輪の関係」「シリア情勢について」をテーマに生徒とのトークセッションを行いました。来場者からは「意識を保ち続けるためにはどうしたらよいか」「生徒は活動を通じてどのような学びや気づきがあったか」などの質問を受けました。閉会後は、ホール出入口にて募金活動、また生徒がデザインしたオリジナル支援グッズの販売を行いました。

上映会には保護者・家族36名、生徒23名、学外の方9名、教職員3名の合わせて71名の来場があり、主催生徒からは「難民の方に勇気と夢を与える募金になれたらよい」「平和であると思っても一瞬にして今までの日常が失われてしまうこと、誰にでもそれらは起こるということを知ってもらいたい」などといった声が聞かれました。



## 難民セミナー オリジナルグッズ



利益の全額は 国連UNHCR協会 に寄付させていただきます

## 2025 映画上映&トーク 難民支援と草の根の多文化主義を考える

上映作品：『孤立からつながりへ～ローズマリーの流儀～』（オーストラリア制作）

開催日：2025年1月25日（土）14:00時～16時30分

会場：青山学院大学青山キャンパス

主催：青山学院大学総合文化政策学部

協力：日本映像翻訳アカデミー

青山学院大学では、1月25日（土）に同大学青山キャンパスにて『孤立からつながりへ～ローズマリーの流儀～』の上映会を行いました。この映画は2024年のUNHCR難民映画祭で本邦初上映され、字幕は、青山学院大学総合文化政策学部の授業科目「映像翻訳を通じて世界と関わる」（担当：宮澤淳一・同学部教授）の2024年度履修生5名が作成しました（指導協力：日本映像翻訳アカデミー）。会場では6ページにわたる作品解説のオリジナル・パンフレットが配付され、上映前に履修生により、オーストラリアの難民受け入れや多文化主義など、映画の背景について紹介されました。上映後は、同学部教授の飯笹佐代子よりシドニーにおける難民支援の事例についてのトーク、続いて参加者との質疑応答が行われました。学内外からの20名を超える来場者とともに、映画の感想はじめ、この映画から学べることや、難民をめぐる課題などについて実りある意見交換を行うことができました。



上映前の映画紹介



上映終了後、参加者からの質問に答える字幕を作成した学生たち

### 難民映画祭パートナーズ 難民支援と草の根の多文化主義を考える オーストラリア映画 『孤立からつながりへ～ローズマリーの流儀～』 上映&トーク

#### プログラム

- (1) 短編動画『リスト：彼らが手にしていたもの』（国連UNHCR協会提供）
- (2) 映像翻訳ラボ生による作品紹介
- (3) 映画『孤立からつながりへ～ローズマリーの流儀～』  
Rosemary's Way, directed by Ros Horin, Australia, 2020, 75min.  
（ロス・ホーリン監督 / オーストラリア / 2020年 / 75分）  
日本語字幕：青山学院大学総合文化政策学部「映像翻訳ラボ」  
（宮澤淳一教授担当「ラボ・アトリエ実習」履修生5名）  
字幕製作指導協力：日本映像翻訳アカデミー
- (4) トーク「シドニーの難民支援をめぐる現場から」  
飯笹佐代子 先生（青山学院大学総合文化政策学部 教授）

2025年1月22日（土）  
14:00～16:30  
青山学院大学青山キャンパス  
17号館4階401教室



主催：青山学院大学総合文化政策学部  
（「国連UNHCR難民映画祭2024-学校パートナーズ」参加校）  
後援：国連UNHCR協会  
協力：日本映像翻訳アカデミー

※この上映会は、青山学院大学総合文化政策学部「映像翻訳ラボ」の2024年度成果発表です。

青山学院大学 総合文化政策学部 映像翻訳ラボ

# 広島市立大学国際学部・公開講座 難民映画祭パートナーズ上映会 難民問題と女性の平和

上映作品：『ソニータ』

開催日：2025年2月2日（日）13時～16時

会場：合人社ウェンディひと・まちプラザ 北棟6階 マルチメディアスタジオ

主催：広島市立大学国際学部

広島市立大学国際学部では、2月2日（日）に「難民問題と女性の平和」と題した公開講座を広島市中区・合人社ウェンディひと・まちプラザ・マルチメディアスタジオにおいて開催しました。この講座の一環として、国連UNHCR協会・難民映画祭・学校パートナーズ上映会『ソニータ』の上映会を実施しました。広島市立大学における学校パートナーズ上映会の開催は、今回で7回目になりますが、例年よりも多い約90名の参加者にお集まりいただき、盛況のうちに上映会を終えることができました。当日の講座では、冒頭、本学の長史隆講師により、本映画の主人公であるソニータや舞台となったアフガニスタンの現状などを中心に解説を行っていただきました。そのあと、『ソニータ』の鑑賞会を実施し、オーディエンスの方々とのおいでで質疑応答を行いました。映画の内容にたいして、参加者からの反響は大きく、女性への抑圧について政治的・社会的背景を含めた質問や、この問題について日本でできることなど、かなり踏み込んだ内容の質問・コメントが多く寄せられ、非常に意義のある上映会となりました。

広島市立大学国際学部・公開講座  
難民映画祭パートナーズ上映会  
国連UNHCR協会  
難民映画祭 PARTNERS

## 難民問題と女性の平和

第7回目となる広島市立大学国際学部公開講座・難民映画祭パートナーズ上映会では、アフガニスタンからの難民女性に焦点を当てたドキュメンタリー映画『ソニータ』を上映。国際問題を牽引する国際学部・長史隆講師が、難民を取り巻く状況について解説を行い、「難民問題と女性の平和」について考えます。

講師：長史隆（国際学部講師）

13:00 本演目の前書きについて解説  
13:40 映画上映（約90分）  
15:20 参加者からの質疑応答

上映作品『ソニータ』  
ソニータは、アフガニスタンから逃げてきた難民女性で、彼女が抱えている問題は、世界中の難民女性にも共通しています。彼女が抱えている問題は、世界中の難民女性にも共通しています。彼女が抱えている問題は、世界中の難民女性にも共通しています。

2025年2月2日 13:00~16:00  
会場 12:30~

合人社ウェンディひと・まちプラザ  
北棟6階マルチメディアスタジオ  
広島市中区南町三丁目  
TEL:082-545-3911

先着100名  
入場料無料

お申し込み方法

広島市立大学国際学部ウェブサイト  
QRコードまたはURLから  
https://www.hiroshima-u.ac.jp/~international/sonita/

FAX:082-830-1555  
下部を記入して送信してください。  
①お名前 ②お電話番号 ③お住所  
〒730-0000 広島市中区南町三丁目

1月29日(日)まで  
お申し込みください

広島市立大学  
広島市立大学 地域貢献センター  
TEL:082-830-1542 FAX:082-830-1555  
E-mail: chi-ren@hiroshima-u.ac.jp



# 映画『ピース・バイ・チョコレート』上映会

上映作品：『ピース・バイ・チョコレート』

開催日：2025年2月15日（土）13時～14時50分

会場：横浜みなと博物館 訓練センター 会議室1

主催：東海大学国際学部

※「SDGs多文化CITYフォーラム」のプログラムの一つとして実施

東海大学国際学部では、2月15日（土）、横浜のみなとみらい地区で開催された「SDGs多文化CITYフォーラム」の会場で、映画『ピース・バイ・チョコレート』の上映会を行いました。企画・運営にあたったのは、国際学科の科目「Global Action Advanced-A」を履修した1～3年生、12名の学生たちです。

映画の冒頭、空港でシリアから来た青年をカナダ人の家族が出迎えるシーンがありますが、カナダでは、民間団体や5人以上の個人のグループが“身元引受人”となって難民を受け入れる「民間スポンサープログラム」という仕組みがあります。そんなカナダの難民・移民受け入れ事情も垣間見える映画でした。

上映会には33名が参加し、上映後のアンケートでは「実話が元になって、リアルを知ることができてよかった（30代）」「難民問題は、人の命を奪うだけでなく、家族の関係に亀裂が生じたり、精神を不安定にさせたり、単純な話ではないと知った（20代）」などの感想がありました。



## 難民映画祭映画上映会『学校をつくる、難民の挑戦』

上映作品：『学校をつくる、難民の挑戦』

開催日：2025年3月15日（土） 12時～15時

会場：明星中学校・高等学校 視聴覚ホール

主催：明星中学校・高等学校

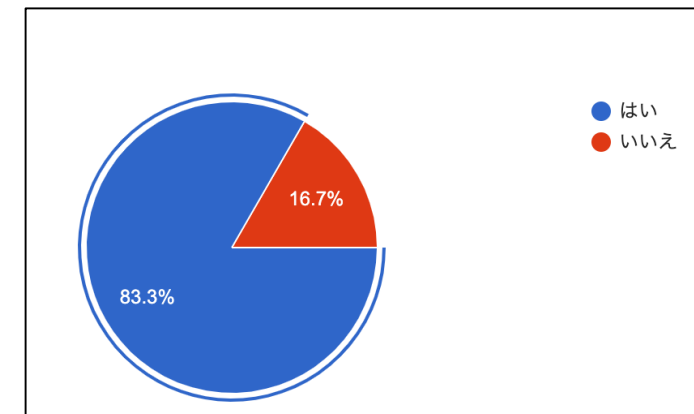
協力： 明星大学 人文学部

明星中学校・高等学校は、2025年3月19日（水）に明星中学校・高等学校視聴覚ホールにて『学校をつくる、難民の挑戦』の上映会を行いました。参加者は、明星高等学校本科の1・2年生の希望者、保護者です。当日はゲストとして川又めぐみ先生・加藤孝徳先生（両先生は明星大学人文学部 教授）、本高卒業生（明星大学学生）をお招きして、上演前に大学で実施されている「映像翻訳フィールドワーク」について、上映後「映画の解説」と題したトークをお願いし、本映画で描かれている難民の背景について解説をしていただきました。また、参加者は質疑応答を通して難民問題について共感を深めることができました。上映会には学生約40名、一般の方として保護者の方10名程度の計50名の来場があり、参加者からは「とても考えさせられた」「もっと知りたい」といった声が聞かれました。（右アンケート結果参照）

### ◆上映後の生徒感想抜粋

難民に対して「怖い」と思っている大学生の話が出てきたとき、確かに難民についてよく知らないと思うと怖く感じてしまうよなと少し共感した。自分も今まで難民について知ろうとしたことがほとんどなかったの、難民についての知識が乏しかった。なので今回の映画鑑賞を通して、少しでも難民について理解が深められたと感じ、とても貴重な体験ができたと思う。	この映画を観て、難民の人々が置かれている厳しい現実と、それでも未来を切り開こうとする強い意志に深く感動しました。私は、難民というと「助けを待つ存在」というイメージを持っていましたが、この映画では彼ら自身が「自分たちの力で変えていこう」と行動を起こしている姿が描かれていて、その考えが大きく変わりました。特に印象的だったのは、難民キャンプで教育を受ける機会がなかったにもかかわらず、彼らが「学校をつくる」という選択をしたことです。普通なら諦めてしまいたい状況でも、「学びたい」という強い思いが人々を動かし、実際に学校を作り上げていく姿に驚きました。学ぶ環境があることが当たり前の自分たちとは違い、彼らにとって教育は「夢」や「希望」そのものであり、それを手に入れるために努力している姿に胸を打たれました。
難民の人たちがどのような生活や経験をしてきたのかを知ることができた。また、難民は難民と認定されないと難民と認められないことなどを初めて知り、難民の人たちの大変さなども知ることができた	難民の集団行動は認めないと言っていたが、彼らの行動が庇護希望者の集団行動を認めさせたとともに教育を受けられない庇護希望者の子供達の学びの場を作ったというのはとてもすごいと感じた。
今の日本、今の自分たちの生活が当たり前ではないことを改めて認識し、今の生活ができていることに感謝をしながら日々を生きていきたいなと思いました。	難民という厳しい状況の中でも、SNSを通したり、学校で活動したりしてとてもすごいと思った。1時間くらいあった動画を全て翻訳するのは難しい言葉含め、大変だと思いました
映画を見て難民の人の大変さを知りました。難民の人は学習できなかったり勉強の環境が整っていないなど自分の環境が当たり前ではないことを知りました。	難民やUNHCRなどについては名前も聞いたこともないし全然詳しくなかったが、今回の映画を通じて色々なことを学べたし、新たな考えを得ることができた
とても勉強になりました。世界には様々な国があるのだと知りました。映画の中で住むことも生活なども敵から恐れて暮らしていて私は部活とか勉強とかが思う用にできることや悩み事などはとても小さなことでとても幸せなことなのだと感じました。	とてもわかりやすかったし、見やすかった、そこに住んでいる人たちの悲惨さとそこで前向きに生きようとする姿勢を感じた
学校に普通に來られている環境に感謝しないとけないと思った。	難民の人たちの大変さとういう人なのかというのが理解できた。そして難民は認定されないとけないというのを初めて知った。
世界の難民は単純に住む場所がなかったり申請ができていないという状況にあるだけだと思っていた。しかし、申請を待っている時点で庇護難民？という者にあたるのだと分かった。少し難しい内容だったけれど難民に関して、英語字幕翻訳について考えるきっかけになれたと感じた。	想像していたより、難民の方の生活が大変だと感じた。『難民』は申請をしないと認められないことを知った。
難民への誤解はまだ根付いていることに初めて気がついた。新聞で読んだりテレビ番組で見る難民の問題は、盗難や殺傷などの物騒なものが多いと思っていたが、それだけではなくその他の多くの難民は映画で見たように朗らかで前を向ける人が多いのだとわかり、世の中には本当に偏見が多いのだと改めて感じた。	
自分が全く知らない所の話を聞いて、見て、関わりはないけど今後関わることがあれば貴重な経験になると思った。	

### ◆今後このような上映会があったら参加したいと思いますか？



# 上映作品：難民映画祭パートナーズ “The Great Green Wall” (『グレート・グリーン・ウォール』)

会場：神戸女学院大学

主催：神戸女学院大学国際学部

開催日：2025年6月17日（火）11時、13時、15時

共催：日本アフリカ学会関西支部

神戸女学院大学国際学部は、2025年6月17日に『グレート・グリーン・ウォール』の上映会を実施しました。African Studies、International Relations、Gender and Cultural Studiesなどの授業の履修生を含む学生95名、そして教員5名、一般の方3名の計102名が来場。上映前に、元UNHCR職員で、同大学の米川正子教授が本映画の解説を簡単にしました。

学生からさまざまな感想や学びがありました。「住民の避難によって、彼らが長年、大切にしてきた文化、伝統や音楽にも影響を及ぼす。世界どこであろうと、生きる権利があるにもかかわらず」「先進国がアフリカの資源を搾取してきたため、それが間接的に気候変動に影響し、難民と移民を生み出した」「故郷に帰還したいのに、それができないつらさ」「音楽を通して問題意識を変える重要性」など。今後、世界各地での「地球沸騰化」によってますます住民の強制移動が増加することが予想されるため、その意味で本映画はよい警告になったと思われます。



左下：会場内、  
右下：参加した教員と学生らと



# 国際教養学部公開講座「難民映画祭パートナーズ上映会」

上映作品：『学校をつくる、難民の挑戦』

開催日：2025年6月17日（火） 13時～14:50

会場：順天堂大学 お茶の水キャンパス 第三教育棟

主催：順天堂大学 国際教養学部（FILA）

順天堂大学国際教養学部は、6月11日（火）に、公開講座として上映会を開催しました。企画・運営は、FILA運営委員会を中心とする学生メンバーたちと、異文化コミュニケーション領域及びグローバル社会領域の教員5名が担当しました。

当日は湯浅資之副学部長の挨拶と、岡部大祐教員及びゼミ生による「『異』とであう経験：異文化接触の観点からの難民問題」と題したミニトークの後、上映会を開催しました。本学学生・教職員、一般の方、合わせて311名にご参加頂きました。上映会の後、一般来場者には学生企画のミニ・ワーク「わたしと難民：“自分ごと”で考えてみる時間」にご参加頂きました。参加者からは「難民のことを知る機会を頂き、ありがとうございました」等のご感想を頂きました。

二日後の授業で、映画の内容に関するディスカッションを行い、学生企画の「難民を知るためのクイズラリー」も実施しました。また次週には、言語学の観点から映画を振り返る授業も行いました。受講生からは「難民に関する視野の限界から解放され、また一歩リベラルアーツ市民に近づくことができた」などの感想が聞かれました。



# 世界難民の日 映画上映イベント

上映作品：『学校をつくる、難民の挑戦』

開催日：2025年6月18日（水） 17時～19時

会場：法政大学市ヶ谷キャンパス

主催：法政大学グローバル教育センター

法政大学では、6月18日（水）に市ヶ谷キャンパスにて『学校をつくる、難民の挑戦（原題：The Staging Post）』の上映会を行いました。上映後には認定NPO法人難民支援協会スタッフであり本学国際文化学部卒業生である山田 光樹氏をゲストにお招きし、トークイベントを実施いたしました。世界と日本における難民受け入れの現状を講演いただき、特に日本における難民申請の難しさや難民申請中に不安な生活環境に置かれることなど詳細にお話いただきました。山田氏は講演の中で「難民問題は難民の問題ではなく、難民を受け入れる側の問題」という言葉を引用し、日本社会の一員として日本で難民申請する難民の問題を考えて欲しいとお話されていました。講演後には質疑応答が行われ、

「難民認定率が低い日本を目指す理由」や「難民問題について、学生の自分ができることは何か」など多くの質問が寄せられました。

イベントの最後には、山田氏より後輩学生に対し、学生時代には色々な授業を受け、色々な人と会い、色々な場所に行き、その経験が将来のキャリアに繋がるという言葉をお話いただきました。講演後には質疑応答が行われ、「難民認定率が低い日本を目指す理由」や「難民問題について、学生の自分ができることは何か」など多くの質問が寄せられました。イベントの最後には、山田氏より後輩学生に対し、学生時代には色々な授業を受け、色々な人と会い、色々な場所に行き、その経験が将来のキャリアに繋がるという言葉をお話いただきました。

難民映画祭 | PARTNERS

## 世界難民の日 映画上映イベント

上映作品  
**学校をつくる、  
難民の挑戦**  
原題：The Staging Post

監督：Jolyon Hoff  
オーストラリア/2017年/65分/ドキュメンタリー  
オーストラリア政府がホストで到着したすべての庇護希望者を強制収容する事となり、インドネシアの手サルア村で数年を過ごすことになったハザラ系アフガニスタン難民、ムザーフアとハザムという2人の若者がいた。奮闘りながら状況の中でも、よりよい生活を求めて立ち上がった彼らは、コミュニティを作り、難民のための教育革命となる学校を立ち上げた。友情、つながり、コミュニティの力がもたらした大きな希望についての実話である。

### 専門家によるトークイベント

上映終了後、難民に関する研究・フィールドワーク・国内外での支援の経験がある認定NPO法人難民支援協会スタッフ「難民研究フォーラム事務局」山田光樹氏（国際文化学部卒）をお招きし、映画に対するコメントや難民問題に関するお話をいただきます。

日程 2025年6月18日（水）  
会場 市ヶ谷キャンパス 大内山校舎 7階 Y702教室  
時間 17:00～18:10 映画上映  
18:10～19:00 トークイベント  
申込 右記のフォームからお申込みください。  
参加費無料、定員先着100名。

お問い合わせ先  
法政大学グローバル教育センター国際交流課  
03-2364-9062 ic@hosei.ac.jp

後援：国連UNHCR協会  
共催：法政大学ダイバーシティ・エクイティ  
イノベーションセンター（D.E.I.センター）



## ネーミングライツ事業

### 「難民映画祭パートナーズ上映会」 in 富山大学

上映作品：『永遠の故郷ウクライナを逃れて』

開催日：2025年6月18日（水）18時30分～20時

会場：富山大学五福キャンパス 金森産業ホール

主催：地域連携推進機構 地域連携戦略室

6月18日（水）、富山大学五福キャンパス・金森産業ホールにて「難民映画祭パートナーズ上映会 in 富山大学」を初開催し、約40名が参加しました。本上映会は、ネーミングライツ事業（命名権料）を活用した事業として、地域連携推進機構 地域連携戦略室を中心に企画・運営したもので、学生同士の交流や、教職員・地域コミュニティとの出会いの場を意識的に創出し、国境・年齢・立場を越えた交流を促進することを目的としています。

当日は、ウクライナ市民が紛争から逃れようとする避難の旅路を追ったドキュメンタリー作品『永遠の故郷ウクライナを逃れて（原題：In the Rearview）』を上映し、参加者は故郷を追われた人々の現状に想いを寄せながら鑑賞しました。

富山大学での難民映画祭パートナーズ上映会は今回が初の開催となり、学生に加えて一般の方にも多くご参加いただきました。参加者からは「難民問題を身近にとらえるきっかけになった」という声が寄せられ、意義ある上映会となりました。



広報ツール（フライヤー）



企画・当日司会者



当日の上映開始時点の様子



受付の様子

# 世界難民の日映画上映会『学校をつくる、難民の挑戦』 UNHCR難民映画祭パートナーズ – 神田外語大学

上映作品：『学校をつくる、難民の挑戦』

開催日：2025/6/20（金） 10:40～13:00

会場：神田外語大学7号館2階クリスタルホール

主催：神田外語大学ボランティアセンター

共催：神田外語大学グローバルコミュニケーション研究所

神田外語大学ボランティアセンターは、6/20（金）に7号館2階クリスタルホールにて『学校をつくる、難民の挑戦』の上映会を主催し、学生・教職員102名、一般4名の計106名が来場しました。本編上映前には、短編映画「リスト：彼らが手にしていたもの」を上映したほか、グローバル・リベラルアーツ学部准教授の高橋麻奈先生から、インドネシアのチサルアという場所、アフガニスタンのハズラ民族のことなど、作品の背景についてご解説いただきました。映画上映後はサヘル・ローズさん（タレント・俳優）にオンラインゲストとしてご登壇いただきました。参加者はサヘルさんからのメッセージ及び質疑応答を通して、グローバル社会で何が起きているのかを改めて考え、自分事として捉えることの重要性を再認識することができました。上映会後は、「当たり前前の教育を当たり前前に受けられない難民の存在を知り、今の自分の環境に感謝し、1日1日を大切にしようと思った」「サヘルさんが仰った『傍観者がいつの間にか加担者になってしまう』という言葉がとても心に刺さった」という声が聞かれました。

難民映画祭 PARTNERS 神田外語大学  
難民映画祭パートナーズ上映会  
『学校をつくる、難民の挑戦』  
原題：The Staging Post  
監督：Jolyon Hoff / オーストラリア / 2017年 / 65分 / ドキュメンタリー

COURAGEOUS PEOPLE NEVER GIVE UP  
**THE STAGING POST**  
A Film by Jolyon Hoff

オーストラリア最南端がポートで射撃したすべての難民希望者を強制収容する事となり、インドネシアのチサルア村で難民を救うことになったハズラ系アフガニスタン難民、ムザファとハチムンという2人の若者がいた。富より豊かな生活の夢でも、よりよい生活を求めて立ち上がった彼らは、コミュニティを作り、難民のための教育革命となる学校を立ち上げた。友情、つながり、コミュニティの力がもたらした大きな希望についての記録である。

2025年6月20日  
10:40 ~ 12:50  
(昼食持参・飲食OK)

7号館2階  
クリスタルホール  
← 211号室

参加費無料  
申込制(要)

特別ゲストとしてサヘル・ローズさんがオンラインで登場します！

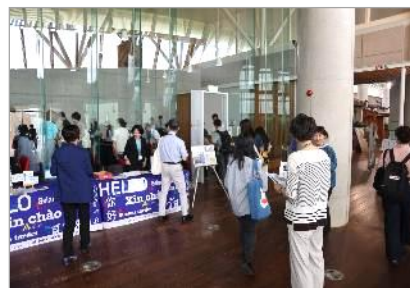
Jahel Rose (俳優・タレント)  
インドネシアのチサルア村で難民を救った映画『学校をつくる、難民の挑戦』の主演女優。映画上映後、インドネシアのチサルア村で難民を救った映画『学校をつくる、難民の挑戦』の主演女優。映画上映後、インドネシアのチサルア村で難民を救った映画『学校をつくる、難民の挑戦』の主演女優。

特別ゲストとしてサヘル・ローズさんがオンラインで登場します！

Q&A Session 1 予定しています！

コーディネーター  
高橋麻奈先生  
アキバリ・フーリエ先生

お問い合わせ先：神田外語大学ボランティアセンター  
〒330-4014 千葉県流山市芝田第1-4-1 TEL: 0475-273-1337 E-mail: volunteer@kankai.ac.jp  
(住所) 神田外語大学グローバルコミュニケーション研究所 (TEL) 03-5843-1000



続々と会場のクリスタルホールに集まる参加者の皆さん



高橋先生による、チサルア、ハズラ民族などについての解説



満員の会場で映画に真剣に見入る参加者の皆さん



イラン出身のアキバリ先生によるサヘル・ローズさん紹介



学生達に向けてメッセージを伝えるサヘル・ローズさん



背面WEBカメラの方を向きながらサヘルさんに質問をする学生

# 上智大学国連Weeks実施企画、難民映画祭パートナーズ上映イベント

上映作品：『ビバ・マエストロ！ 指揮者ドゥダメルの挑戦』

開催日：2025年6月20日（金） 18時30分～20時30分

会場：上智大学 四谷キャンパス 6号館101教室

主催：上智大学

共催：国際協力人材育成センター

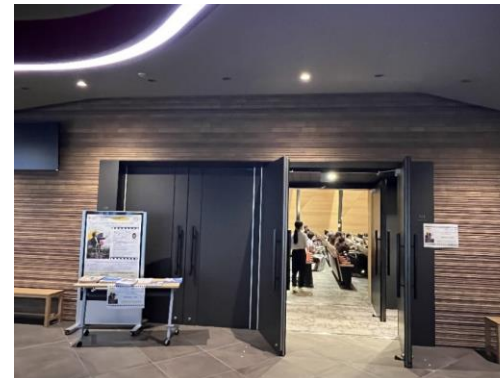
上智大学では、2025年6月20日（金）に四谷キャンパス6号館101教室にて、ミニレクチャーと『ビバ・マエストロ！ 指揮者ドゥダメルの挑戦』の上映会を行いました。企画・運営は、国際協力人材育成センターを主体としました。当日は学内関係者の他、高校生や大学生、一般の方など総じて134名の来場者をお迎えすることが出来ました。

当日はゲストとして坂口安紀様（アジア経済研究所）をお招きして、上演前に「ベネズエラの苦悩、ドゥダメルの苦悩」という題でご講演いただき、本映画と関連して、政治経済的な視点から、ベネズエラ情勢について避難民・移民の流れや経済状況、子どもたちの教育（音楽教育）などについて国内外の情勢を踏まえ、お話いただきました。

また、上映後の来場者のアンケートでは「とても満足」と「満足」がほとんどでした。来場者からの感想では「音楽を通してベネズエラについて知る良い機会であった」、「困難な状況にあっても音楽は世界中の人々を繋ぎ、人を救うことの出来る力を持つのだと実感した」、「作品を通じてベネズエラを知ることができた」など多くの意見が寄せられました。



上映会の案内掲示



上映会場の様子

**上智大学 難民映画祭 PARTNERS** **上映会 Film screening** **国連Weeks**

**ビバ・マエストロ！ 指揮者ドゥダメルの挑戦**  
**Viva Maestro!**

**プログラム**  
 司会進行・モデレーター 近藤 哲生  
 上智大学国際協力人材育成センター  
 アフリカ教育センター 特別講師  
 国際協力人材育成センター 特別講師  
 ミニレクチャー 坂口 安紀  
 アジア経済研究所 国際協力人材育成センター  
 主任研究員 専門地域（ベネズエラ）  
 映画上映 191分

**Programme**  
 Opening Remarks / Moderator  
**Tetsuo KINDO**  
 Director, Human Resources Center for International Cooperation, Sophia University / Former JICA representative in Japan  
**Lucy Aki SAKAGUCHI**  
 Japan External Trade Organization, Institute of Developing Economies (IDE/JETRO) / African and Latin American Studies Group, Asia Studies Center / Senior Research Fellow  
**Film Screening (about 100min.)**

主演: アスターゴ・ドゥダメル / 監督: テオドール・ブロン / 2022年  
 クラシック音楽界のスーパースター、ダスターゴ・ドゥダメルは途絶ベネズエラの社会不安に押し込まれ、窮乏に苦しんだ。音楽家としての心と、ヒトとしての良心は異なるカラーレット・ブロン監督が感動的に描き出す。政治的困難の中でこそ表裏される真の力の、Superstar conductor Gustavo Dudamel faces the test of a lifetime when social unrest in his Venezuelan homeland challenges his conviction that music has the power to unite. Director Ted Brown's emotional affirmation of the resilience of art in a time of political crisis.

2025.6.20日(金) / Friday, June 20 18:30 - 20:30 (開場 open 18:00~)  
 会場: 四谷キャンパス内 6号館101教室  
 Venue: Room-101, Building 6, Yotsuba campus  
 言語: 英語・スペイン語 / Language: English, Spanish  
 字幕: 日本語 (一部日・英) / Subtitle: Japanese/English (in some parts)  
 対象: 学生・一般の方 無料・要事前申込  
 Admission Free, Registration required. Open to public  
 問合せ先 / Contact: hrc-ic-co@sophia.ac.jp  
 主催: 上智大学 共催: 国際協力人材育成センター 後援: 国際協力センター  
 Organizer: Sophia University Co-organizer: Human Resources Center for International Cooperation, Sophia University (HRC) Supported by: icrc-hrc

**United Nations Academic Impact** **国連Weeks** **GOALS**

対面 ★ハイフレックス  
 国連の48対面形式Zoomによるオンライン対面を組み合わせたハイフレックスの形式で開催されます。

★【日本語・英語同時通訳あり】  
**JICAと人間の安全保障: 理念と実践 ~ 国際機関との連携も含め ~**  
 JICA国際協力機構のトップである田中明彦理事長に上智大学で話し、人間の安全保障、という概念をどう、JICAの海外支援の現場に活かしているか、平和構築への国際的取り組みの進捗についてお話を伺います。

★【日本語・英語同時通訳あり】  
**国際的な人の移動: 現状と課題**  
 国際協力・経済・法・ビジネスなど多岐にわたる観点からのアプローチで、移民に関する課題をエビデンスに基づいたデータで検証することから、国際的な人の移動の現状と課題を深掘りし、早急で対応した必要性を指摘した日本経済についてお話を伺います。

★【日本語・英語同時通訳あり】  
**国連IOM ロビンヤ文化記憶センター ワールドツアー**  
 IOMがアジア太平洋地域に展開している100万人の難民を支援する活動を通じて、早急な対応を促すためのオンラインイベントが、文化や経済の健全な心づくりに対しての重要性を説きます。

★【日本語・英語同時通訳あり】  
**国際機関・国際協力キャリア・ワークショップ**  
 国際機関や国際協力分野でキャリアを築く方々からベネズエラへのキャリアアップに関する最新情報や上智大学のグローバルネットワークである国際機関、NGO、民間企業で活躍の機会を豊富に持つ方々をお招きし、国際協力キャリアの最新動向についてお話を伺います。

★【日本語・英語同時通訳あり】  
**難民映画祭 上映作品『ビバ・マエストロ! 指揮者ドゥダメルの挑戦』**  
 難民映画祭の上映作品として、『ビバ・マエストロ! 指揮者ドゥダメルの挑戦』が、社会や文化の発展に寄与しながらも、音楽活動を通じて人々の心を繋ぎ、困難な状況下でも希望を伝える力を持つ芸術家としての活躍についてお話を伺います。

主催: 上智大学 共催: 国際協力センター  
 後援: 国際協力センター  
 問合せ先: hrc-ic-co@sophia.ac.jp



坂口様ご登壇の様子



# 名城大学難民映画祭パートナーズ上映会2025

上映作品：『難民アスリート、逆境からの挑戦』

開催日：2025年6月26日（木） 16時40分～19時00分

会場：名城大学ナゴヤドーム前キャンパス DS101教室

主催：名城大学外国語学部・宮下ゼミ企画

名城大学外国語学部は、6月26日（木）、名城大学ナゴヤドーム前キャンパスにて『難民アスリート、逆境からの挑戦』の上映会を開催しました。企画・運営を担ったのは、宮下大夢准教授のゼミに所属する12名の学生たちです。当日は、上演前にゼミ生による開会挨拶、「世界の難民と日本」についての発表、そして映画のあらすじ紹介が行われました。閉会挨拶では、宮下准教授から、「世界の絶望を伝える前に、希望を伝えよう」という思いのもと、ゼミ生たちが本作品を選んだ経緯が語られ、あわせて世界の難民・避難民を支えるための募金活動への協力が呼びかけられました。

上映会には、学生・一般の参加者を合わせて計47名が来場しました。参加者からは「難民の現状と、希望を知ることができて、興味深かった」「環境のせいにしないで、諦めずに頑張っていた姿に勇気をもらった」「映画を通して、社会問題を知っていくのは僕達でも容易に理解できるのでとても良い方法だと思いました」といった声が寄せられました。本イベントは、逆境にあっても挑戦し続けることの大切さや、世界の難民と日本の関係についての理解を深める貴重な機会になったと思います。



学生による上映前講演（左上上、左下）



運営メンバー（右下）



# 難民映画祭パートナーズ上映会2025

上映作品：『永遠の故郷ウクライナを逃れて』  
『ピース・バイ・チョコレート』  
『リスト：彼らが手にしていたもの』

開催日：2025年6月30日（月） 14時～20時10分

会場：文京シビックホール 小ホール

主催：文京区

文京区は、6月30日（月）に難民映画祭パートナーズ上映会2025にて『永遠の故郷ウクライナを逃れて』『ピース・バイ・チョコレート』の二作品の上映会を行いました。また、第一部の長編上映前には『リスト：彼らが手にしていたもの』の上映も行いました。

上映会には、第一部88名、第二部73名の合計161名の方にご来場いただきました。ロビーでは写真パネルの展示ブースを設け、来場者の多くの方々にご覧いただきました。

来場者からは「戦争の悲惨さを再認識できた」や「難民の苦難を知ることができるいい機会だった」といった声が聞かれました。

難民映画祭 PARTNERS 事前申込制 参加無料

## 難民映画祭パートナーズ上映会2025

映画上映会 2025年6月30日（月）

上映作品 第1部 永遠の故郷ウクライナを逃れて  
第2部 ピース・バイ・チョコレート

前日 第1部 14時から15時40分まで  
第2部 16時30分から20時10分まで

会場 文京シビックホール 小ホール  
（文京区春日1-16-21 文京シビックセンター2階）

申込方法 下記の申込フォーム、または右記QRコードからお申込みください。  
<https://goform.jp/form/6KSU/582494>  
2025年6月23日（月）

申込料金 参加無料 / 事前申込制 / 定員200人

その他 記号（対象：1歳～未就学児、定員あり）・手話訳訳は6月12日（木）までに要申込

主催 文京区 文京区難民映画祭パートナーズ推進事務局 TEL0356031187  
後援 国連NHC協会 UNHCR難民日事務局

### 上映スケジュール

日時 6月30日（月）

第1部 14:00～15:40まで 「永遠の故郷ウクライナを逃れて」  
第2部 16:30～20:10まで 「ピース・バイ・チョコレート」

※上映時間、上映の順番、上映の順序は変更される可能性があります。詳細は本上映の告知書をご覧ください。上映の順番、上映の順序は変更される可能性があります。詳細は本上映の告知書をご覧ください。

#### 上映作品

永遠の故郷ウクライナを逃れて（原題：In the Rearview）  
監督：Marek Hameš / チェコ、フランス、ウクライナ / 2023年 / 84分 / ドキュメンタリー  
ウクライナの戦乱がもたらした難民の苦難を伝えるドキュメンタリー。戦乱がもたらした難民の苦難を伝えるドキュメンタリー。戦乱がもたらした難民の苦難を伝えるドキュメンタリー。

ピース・バイ・チョコレート（原題：Peace by Chocolate）  
監督：Jonathan Keijsers / カナダ / 2021年 / 96分 / ドラマ  
ウクライナに避難した難民の苦難を伝えるドキュメンタリー。戦乱がもたらした難民の苦難を伝えるドキュメンタリー。戦乱がもたらした難民の苦難を伝えるドキュメンタリー。

#### 世界難民の日関連事業 6月20日は「世界難民の日」

世界難民の日（6月20日）の「世界のほらほら」のほらほらプロジェクト。世界難民の日（6月20日）の「世界のほらほら」のほらほらプロジェクト。世界難民の日（6月20日）の「世界のほらほら」のほらほらプロジェクト。

日時 6月20日（金）～6月30日（月）  
時間 7:30～17:00  
会場 文京シビックセンター2階（講堂）

世界難民の日ブルーライトアップ  
6/20（世界難民の日）には本会が「ブルーライトアップ」のブルーライトアップを実施しています。  
日時 6月20日（金）～6月30日（月）  
時間 7:00～22:00  
会場 文京シビックセンター2階上三角屋根



会場の様子



ロビーの様子



写真パネルの展示

# 難民問題を知り、共創を考える～世界と共創する未来～

## 難民の働きがい事業成長に繋がる日

上映作品：『ピース・バイ・チョコレート』

開催日：2025年7月29日（火） 17時30分～20時00分

会場：Inspired.Lab

主催：イググローバルパクト ソーシング コンソーシアム(GISC)(一般社団法人 WelcomeJapan内組織)

協力： Inspired.Lab

2025年7月29日（火）、難民映画祭を開催し、映画『ピース・バイ・チョコレート』を上映しました。シリア内戦で難民となった一家がカナダで暮らしを立て直し、家業のチョコレートを通じて再出発する“実話ベースの再建の物語”です。上映後は、一般社団法人Welcome Japan代表理事の金辰泰（キム・ジンテ）氏と、CRCP難民アドバイザーメンバーのスザン氏がパネルディスカッションを実施。新天地で生活を築く困難や、ビジネスを通じた共生の可能性が語られました。当日は33名が来場し、普段は難民問題に関わることの少ない参加者も多く、さまざまな角度から関心の高い質問が活発に交わされました。終了後の懇親会では、登壇者・参加者間での交流が進み、学びを具体的な対話へとつなげる機会となりました。



フライヤー



参加者集合写真



パネルディスカッションの様子

## 難民映画祭パートナーズ上映会『戦火のランナー』 & ユネスコスクール交流会

上映作品：『戦火のランナー』

開催日：2025年8月7日（木） 10時～12時

会場：成蹊大学4号館

主催：成蹊学園サステナビリティ教育研究センター

成蹊学園サステナビリティ教育研究センターでは、8月7日(木)に成蹊大学4号館にて『戦火のランナー』の上映会を行いました。企画・運営にあたったのは、成蹊中学・高等学校、成蹊大学、東洋女子高等学校の生徒・学生たちです。上映後は、運営メンバーによるトークセッションを行い、映画の感想や各校の日頃の活動紹介、今後の課題について意見交換を行いました。上映会には89名の来場があり、参加者からは「色々なことに無関心ではいけないと思った」や「日本国内の難民問題、仮放免者や被収容者についても広く情報提供し、在留資格を得られるよう支援していきたい」「学生のみなさんの、意識を持とうとする姿勢や、知るべきことを知り、できることをしようとするあり方に、心打たれました」といった声が聞かれました。



トークセッションの様子

難民映画祭  
パートナーズ上映会  
2025  
IN 成蹊大学

2025 8.7 THU  
上映時間 10:00~  
会場 成蹊大学4号館  
費用 無料

上映作品  
『戦火のランナー』  
彼は今日も走る。希望を届けるために、走り続け、一時は「誰のいない男」と呼ばれた彼には光の希望が降り注いだ。不安の精神で走り続けるガールの人生に感動せずにはいられない感動のドキュメンタリー

ユネスコスクール交流会  
ユネスコスクールである成蹊学園と東洋女子高等学校の中学生・大学生が日頃の活動などをお話します！

お申込み  
QRコード

成蹊学園サステナビリティ教育研究センター ercs@jc.seikei.ac.jp  
後援：国連UNHCR協会  
運営：成蹊中学・高等学校、成蹊大学、東洋女子高等学校

# あいち国際女性映画祭

上映作品：『永遠の故郷ウクライナを逃れて』

開催日：2025年9月12日（金） 16時10分～17時40分

会場：ウィルあいち

主催：公益財団法人あいち男女共同参画財団

あいち国際女性映画祭は、9月12日（金）にウィルあいちにて『永遠の故郷ウクライナを逃れて』の上映会を行いました。企画・運営にあたったのは、公益財団法人あいち男女共同参画財団です。当日はゲストとして羽田野真帆さん（名古屋難民支援室理事・事務局長）、川口プリス・リュドミラさん（日本ウクライナ文化協会理事長）、サムソノバ・テチアナさん（名古屋市観光文化交流局国際交流課）、片岡典子さん（中日新聞編集局社会部）をお招きして、上演後に「ウクライナからの声:避難民とともに歩む日本」と題したシンポジウムを開催し、質疑応答を通じてウクライナ避難民たちへの支援の在り方を考えることができました。上映会に122名の来場があり、参加者からは「素晴らしいドキュメンタリーだった」や「ウクライナ避難民の実情が知れてよかった」といった声が聞かれました。

## 国際交流企画

### 永遠の故郷ウクライナを逃れて *In the Rearview*

ポーランド、フランス、ウクライナ/2023年/84分/カラー  
監督：マチェク・ハメラ  
ドキュメンタリー  
上映協力：国連UNHCR協会（難民映画祭パートナーズとして上映）

Poland, France, Ukraine/2023/84 min./Color  
Director: Maciek Hamela  
Documentary  
Supported by Japan for UNHCR



戦争によって故郷を離れ、ポーランドに向けて車で避難するウクライナの人々の姿を描くマチェク・ハメラ監督によるドキュメンタリー映画。年齢、性別、出身地の異なる様々な立場の人々が、戦争が始まってからの自分の物語や思いを車中で語る。

This is documentary film by Maciek Hamela depicts multiple generation of Ukrainian who left their homes due to war to Poland. In the van, passengers of different age, gender and origin talk about their emotional and personal stories of war experience.

難民映画祭 | PARTNERS



## ■難民映画祭パートナーズ 『グレート・グリーン・ウォール』 上映会

上映作品：『グレート・グリーン・ウォール』

開催日：

【第1回】2025年10月12日（日）15時00分～17時00分頃（創大祭一般公開1日目）

【第2回】2025年10月17日（金）17時00分～19時00分頃

会場：

【第1回】中央教育棟6F AC631教室

【第2回】中央教育棟B1F ディスカバリーホール

主催：創価大学（共催：ASPIRE SOKA／創価大学パン・アフリカン友好会）



フライヤー



10/12の上映中の様子

### 【実施概要】

創価大学では10月12日（日）に本学中央教育棟AC631教室、10月17日（金）に同ディスカバリーホールにて映画『グレート・グリーン・ウォール』の上映会を開催しました。本上映会は、国連アカデミック・インパクトへの参画を機に発足した学生団体「ASPIRE SOKA」との共催で2018年より毎年開催しており、今回で8回目となります。

上映会では、ASPIRE SOKAの鈴木陽子さん（法学部4年）の挨拶に続き、マリ共和国出身の世界的な女性ミュージシャン、インナ・モジャが音楽で人々をつなぎ、人類史上最大規模の植林プロジェクトの実現へ向けて挑戦する音楽ドキュメンタリー『グレート・グリーン・ウォール』を鑑賞。

18日（金）の上映前には、パン・アフリカン友好会によるオープニングアクト、上映後にはASPIRE SOKAによる本作品に関するプレゼンテーションが行われました。

上映会には、学内外よりあわせて約80名の来場がありました。



パン・アフリカン友好会によるパフォーマンス



10/17の上映会運営メンバー



10/13の上映会運営メンバー

### 【ウェブサイト】

本学HPに掲載した上映会のご案内は[こちら](#)

### 【メディア掲載】

・東京新聞16面「インフォメーション」(10/9)

# 難民映画上映会 & 講演会 瀬戸内市

上映作品：『学校をつくる、難民の挑戦』

開催日：2025年10月19日（日） 10時～12時05分

会場：ゆめトピア長船 2階 夢いっぱいホール

主催：瀬戸内市

瀬戸内市は、10月19日（日）にゆめトピア長船にて『学校をつくる、難民の挑戦』の上映会と国連UNHCR協会の芳島昭一氏による講演会を開催しました。難民をテーマにした講演会は初めて企画しました。イベントには36名の来場があり、参加者からは「難民の人の笑顔、生きる力、教育の大切さを知った。」「難民と移民との違いにハッとした。今まで混同していたかもしれない。」「迫害から逃れてきた難民の人たちは本来守られる対象なのに、危険視されている実情に胸が苦しくなった。」などの感想が寄せられ、多くの方にとって難民問題について深く考えるきっかけとなりました。

難民映画祭 PARTNERS  
難民映画上映会 & 講演会 瀬戸内市

「学校をつくる、難民の挑戦」  
難民の2人の若者が、難民のための学校を立ちあげた。実話に基づく作品

2025/10/19(日)  
10:00～12:00

長船町公民館(ゆめトピア長船) 夢いっぱいホール  
〒701-4264 岡山県瀬戸内市長船町土塚2-77-4  
入場無料 (申込みしてください 定員 200名)

「UNHCRの難民支援と私たちにできること」  
芳島 昭一さん 国連UNHCR協会 広報啓発事業 難民高等教育プログラム担当

参加申込みはうらなをみてください  
主催 瀬戸内市 後援 国連UNHCR協会



会場の様子



映画上映中



講演会

# 大丸有SDGs映画祭2025

上映作品：『難民アスリート、逆境からの挑戦』

開催日：2025年10月23日（木） 18時30分～21時

会場：丸ビルホール

主催：大丸有SDGs ACT5

協力：東京高速道路株式会社、ユナイテッドピープル株式会社

大丸有SDGs映画祭のクロージングとして、10月23日（木）に、丸ビルホールにて、映画『難民アスリート、逆境からの挑戦』を上映しました。上映後には、元陸上選手でオリンピック出場経験がある為末大さんと、難民支援活動にも尽力しているサヘル・ローズさんにトークをしていただきました。当日は146名の来場があり、参加者からは、「普段はあまり考えることのない難民問題について思いを巡らすいい機会になった」「“難民だから”ではなく、選手として息を吞んで応援して、一喜一憂、涙している自分がいました」「東京五輪にこんな裏の話があったなんて。もっと関心を持っていきたいと思いました」などの声が聞かれました。



# 令和7年度 映画で知ろう！移民・難民VI

上映作品：『難民アスリート、逆境からの挑戦』

開催日：2025年10月25日（土） 9時30分～12時00分

会場：静岡市地域福祉共生センター「みなくる」

主催：静岡県立大学大学院国際関係学研究科附属グローバル・スタディーズセンター（CEGLOS）

協力：静岡市地域福祉共生センター「みなくる」

静岡県立大学は、10月25日（土）に静岡市地域福祉共生センター「みなくる」にて『難民アスリート、逆境からの挑戦』の上映会を行いました。企画・運営にあたったのは、静岡県立大学大学院国際関係学研究科附属グローバル・スタディーズセンターです。

当日は、村橋勲研究員（静岡県立大学国際関係学部助教）が、上演後に「難民アスリート」と題したトークを行い、難民オリンピック選手団の背景について解説を行いました。また、参加者は質疑応答を通してオリンピックに出場する難民について共感を深めることができました。

上映会には教員2名、一般の方12名の計14名の来場があり、参加者からは「難民にもさまざまなバックグラウンドがあり、考えさせられた」や「オリンピック難民選手団のことを知らなかったが、映画をとおして選手の背景などを知ることができた」といった声が聞かれました。

令和7年度 静岡県立大学 グローバル・スタディーズ研究センター(CEGLOS) 移動大学  
**映画で知ろう！移民・難民VI**  
今年も移民・難民に関する映画を上映いたします。国際情勢が激しさを増すなか、移民・難民をめぐる状況について深く理解し、一緒に考える機会を持つことは、より一層重要になっていると考えます。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

会場 静岡市地域福祉共生センター「みなくる」 地域交流ホール（静岡市清水区八幡町 3-1 南都病院2階）

**第1回** 企画制作 中心協力者 60名 難民映画祭 PARTNERS  
2025年 **10/25** 9:15開演 9:30映画上映開始 12:00終了  
『難民アスリート、逆境からの挑戦』  
紛争や迫害などによって故郷を追われた難民アスリートから構成される難民選手団。東京オリンピック2020（2021年開催）での難民選手団の活躍をとおして、逆境を乗り越え、夢を追い求める難民それぞれの姿を描き出す。

難民映画祭パートナーズ2025  
実行委員会：村橋勲（国際関係学部 助教） CEGLOS 研究員  
後援：国連 UNHCR 委員会

**第2回** 企画制作 中心協力者 60名  
2025年 **11/8** 9:15開演 9:30映画上映開始 12:00終了  
『敵視される人びと』  
多くの難民が暮らす国家において、移民への排外的な政策、また移民に厳しい政策が、移民、そして国民社会にもたらすものは何か、「難民問題」のなかで生活し行動する移民の物語を通じて描き出す。

企画—— 村橋 勲 研究員（国際関係学部助教）  
実行委員会—— 村橋 勲（国際関係学部 助教） CEGLOS センター 助  
後援—— 国連 難民高等弁務官事務所（UNHCR）

**第3回** 企画制作 中心協力者 60名  
2025年 **11/29** 9:15開演 9:30映画上映開始 12:00終了  
『Our Life 2』  
タイの難民キャンプで生まれ育ったカレン難民の少年、タワツヨ。難民キャンプが生活、難民キャンプへの帰郷、そして、アメリカへの第三国申請、10年にも及ぶ少年のライフコースから経緯をめぐっての姿を描く。

企画—— 渡部 真子 研究員（国際関係学部助教）  
実行委員会—— 村橋 勲（国際関係学部 助教） CEGLOS 研究員

会場—— 静岡市地域福祉共生センター「みなくる」 地域交流ホール（静岡市清水区八幡町 3-1 南都病院2階）  
TEL 054-201-9010 0532-201-1111

主催 静岡県立大学大学院国際関係学研究科附属グローバル・スタディーズセンター(CEGLOS)  
共催 静岡市地域福祉共生センター「みなくる」

イベントのチラシ

## 開催概要

大学院国際関係学研究科附属グローバル・スタディーズ研究センター(CEGLOS)主催、静岡市地域福祉共生センター「みなくる」共催で、「CEGLOS移動大学@みなくる『映画で知ろう！移民・難民VI』」を開催します。

**【第1回】2025年10月25日（土曜日）**  
9時15分開場、9時30分映画上映開始、12時終了

作品「**難民アスリート、逆境からの挑戦**」  
紛争や迫害などによって故郷を追われた難民アスリートから構成される難民選手団。東京オリンピック2020（2021年開催）での難民選手団の活躍をとおして、逆境を乗り越え、夢を追い求める難民それぞれの姿を描き出す。

難民映画祭パートナーズ2025  
静岡県立大学のHP



上映された会場内の様子



上映後の講演の様子

# 難民映画祭パートナーズ札幌市 『ピース・バイ・チョコレート』上映会

上映作品：『ピース・バイ・チョコレート』

開催日：2025年11月23日（日） 13時30分～16時30分

会場：北洋大通センター 4Fセミナーホール

主催：札幌市、特定非営利活動法人 国連UNHCR協会

協力：北洋銀行

協賛：株式会社中山組、日本食品製造合資会社、株式会社 富士メガネ

札幌市と国連UNHCR協会は、映画「ピース・バイ・チョコレート」の上映会を行いました。映画を通じて、世界で起こっている難民問題について理解を深めてもらう事を目的とし、毎年映画上映会を行っています。当日は、122名の市民の方にご参加いただきました。上映後には、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）のウクライナ事務所代表補の土岐日名子氏（札幌市出身）にオンラインでご登壇頂き、長年支援の最前線で活動されてきたご経験や難民の人々とのエピソードなどお話を頂きました。また、UNHCRへの支援活動を継続的に行っている、SITバンド（札幌国際情報高校吹奏楽部）の部員の皆さんにもご登壇頂き、普段行っている支援活動についてお話を頂きました。最後にはSITバンドのミニライブにて「ダンス&プレイ」の素晴らしいパフォーマンスを見せて頂きました。難民問題はどこか遠い国の話と思われがちですが、札幌にゆかりのある二組のお話を聞く事で、より身近な話として考えてるきっかけになったのではないかと思います。



難民映画祭 パートナーズ 札幌市  
『ピース・バイ・チョコレート』上映会  
2025年11月23日(日) 13:30~16:30  
会場：北洋大通センター 4Fセミナーホール (受付12:30-13:20)  
\*入口は大通ピッセ1F 北洋銀行前となります。  
札幌市中央区大通西3丁目7番地 (地下歩行空間13番出入口直結)  
入場：無料・要事前申込 (先着120名、札幌市民及び札幌市内へ通勤・通学されている方対象、グループ申込不可)  
上映後トークセッション  
「難民支援の最前線×札幌～今私たちにできること～」  
土岐日名子 (UNHCRウクライナ事務所 代表補)  
札幌国際情報高等学校吹奏楽部 (SITバンド)  
\*登壇者は状況によりオンラインでの参加となる可能性があります。  
お申し込み方法  
札幌市 お申し込み  
①WEBサイト <https://www.callcenter.city.sapporo.jp/sanpoora/ce/apply/form1.es.html>  
②札幌市コールセンター 電話011-222-4894 (年中無休、8:00~21:00)  
申し込み期間：2025年11月12日(水)8:00~11月20日(木) \*先着順、定員に達し次第締め切り

主催 札幌市  
協賛 株式会社中山組 日本食品製造合資会社 株式会社 富士メガネ  
協力 北洋銀行



# 海士町国際交流祭2025

上映作品：

開催日：2025年11月23日（日） 11時～11時30分／15時半～17時

会場：海士町役場島民ホール（島根県隠岐郡海士町）

主催：（一社）Robo Co-op・（一財）島前ふるさと魅力化財団・海士町

## 報告

一般社団法人Robo Co-op・一般社団法人島前ふるさと魅力化財団・海士町の三者の主催にて、2025年11月23日（日）、海士町役場の島民ホールにて『ピース・バイ・チョコレート』『難民アスリート、逆境からの挑戦』の日本の映画の上映会を行いました。主に企画・運営にあたったのは、Robo Co-opのスタッフと、海士町の制度「大人の島留学」で海士町に滞在している20代の若者たちです。当日はゲストとして、Robo Co-opのスタッフで自身もシリアの難民であるスーザンさん、ロヒンギャ難民のリアンさん、UNHCRの葛西さんをお招きし、上演前に「UNHCRとはどういう組織で、そもそも難民とはどういう人たちなのか」という背景と、スーザンさん、リアンさんのお二人のご経験を伺うトークセッションを行いました。さらに同時期に、ロヒンギャ料理の料理教室と、Robo Co-opの代表キム・ジンテさんを講師とするAIを活用したアプリ開発教室を平行開催しました。上映会には午前の部、午後の部合わせて30名程度の来場があり、参加者からは「（ピース・バイ・チョコレートを見て）難民として、よそ者としてコミュニティに入っていくときの困難はどういった境遇でも同じように難しいのだと感じた」といった声が聞かれました。

10:00	世界の料理教室	AIでアプリ開発体験	出店
オープニング ＜島民ホール＞	世界の料理教室 （講師：スーザン・葛西）	AIでアプリ開発体験 （講師：キム・ジンテ）	出店 （講師：スーザン・葛西）
11:00-11:30 映画鑑賞「ピース・バイ・チョコレート」	11:30-12:00 世界の料理教室 （講師：スーザン・葛西）	11:00-12:45 AIでアプリ開発体験 （講師：キム・ジンテ）	10:30-16:00 出店 （講師：スーザン・葛西）
12:00-13:00 映画鑑賞「難民アスリート、逆境からの挑戦」	13:00-14:00 世界の料理教室 （講師：スーザン・葛西）	14:00-16:30 AIでアプリ開発体験 （講師：キム・ジンテ）	15:00-16:45 出店 （講師：スーザン・葛西）
13:00-14:00 世界の料理教室 （講師：スーザン・葛西）	14:00-16:30 AIでアプリ開発体験 （講師：キム・ジンテ）	15:00-16:45 出店 （講師：スーザン・葛西）	16:00-17:00 世界の料理教室 （講師：スーザン・葛西）
15:00-16:30 世界の料理教室 （講師：スーザン・葛西）	16:00-17:00 世界の料理教室 （講師：スーザン・葛西）	CLOSE	CLOSE
16:00-17:00 世界の料理教室 （講師：スーザン・葛西）	CLOSE	CLOSE	CLOSE

当日のタイムテーブル



上映中の様子



同日に行われた料理教室の様子



Robo Co-opのみなさん

# 関西学院大学 難民映画フェスティバル

上映作品：『永遠の故郷ウクライナを逃れて』	G101	55人
開催：2025年11月28日（金）13:20～15:00	上ヶ原キャンパス	
2025年12月5日（金）15:20～17:00	神戸三田キャンパス	102人
主催：関西学院大学 人権教育研究室		

関西学院大学では、毎年、難民映画パートナーズとして、「関西学院大学難民映画フェスティバル」を開催しています。2025年は、『永遠の故郷ウクライナを逃れて』を上映しました。上ヶ原キャンパスと神戸三田キャンパスでそれぞれ1回ずつ上映し、上ヶ原キャンパス55人、神戸三田キャンパス102人、計157名が鑑賞しました。

上映後のアンケートへの回答では、次のような感想が寄せられました。

「ニュースなどで見るよりも緊迫感や実際の空気感のようなものを感じました。テレビなどで見るのではここまでリアルな空気を感じることは難しいので、とても良い機会だと感じました。」「戦車やボロボロになった自動車や建物を見て、本当に“戦争”であることを改めて感じたし、その戦時下、今もなお彼らの日常があることを忘れてはいけないと思った。」「授業で習ったことを映像で、人々が実際に体験しているところを見て、“本当に誰かに起こっていることなのだ”と実感することができたし、生まれる国が違えば、自分にも起こり得たことなのだ」と他人事から自分ごととして捉えることができるきっかけとなりました。」



上映チラシ



上ヶ原キャンパス G101 会場での上映前の様子

# 明星大学難民映画祭パートナーズ上映会

上映作品：『希望と不安のはざままで』

開催日：2025年12月5日（土） 13時～15時

会場：明星大学32号館108教室

主催：国際コミュニケーション学科 「映像翻訳」

明星大学では、12月5日（土）に32号館108教室にて『希望と不安のはざままで』の上映会を行いました。企画・運営にあたったのは、人文学部国際コミュニケーション学科の「映像翻訳」の学生たちです。当日はゲストとしてNPO法人Stand with Syria Japan監事の山崎やよい様をお招きして、上演後に「『希望と不安』ではシリアは語れない」と題したトークをお願いし、本映画でのシリアの難民たちの背景や現状についてについて解説をしていただきました。また、参加者は質疑応答を通してシリアについて共感を深めることができました。上映会には学生20名、一般の方30名の計50名の来場があり、参加者からは「最初の学生さんたちの導入から、映画、最後の山崎さんのお話で、シリアのことをとても深く知ることができました。翻訳もとても上手で、すごくわかりやすかったです。」や「現在、難民・戦争・紛争から全く縁のないところにいるので、現在もなお、リアルな実情を知ってなんとも言えない気持ちになりました。」といった声が聞かれました。



司会・進行も全て学生が中心となって運営



難民映画祭についての学生発表



上映作品についての学生発表



ゲストトーク

# 高校生によるSDGs グローバル対談

上映作品：『ピースバイチョコレート』

開催日：2025年12月11日(金)13時～17時

会場：名古屋経済大学 名駅キャンパス

主催：市邨学園名古屋経済大学市邨高等学校

協力： 日本旅行

後援： 愛知県、名古屋市、JICA

市邨高等学校ユネスコ平和教育推進部は、12月11日（水）、本校校内にて難民映画祭を実施し、難民をテーマとした映画上映会を行いました。本事業は、世界各地で続く戦争や紛争、貧困により故郷を追われた人々の現状を学び、難民問題を自分事として捉えることを目的に企画したものです。上映前には、ユネスコ憲章の理念や国連による難民支援の取り組みについて解説を行い、背景理解を深めた上で鑑賞しました。上映後は感想共有や対話の時間を設け、生徒一人ひとりが感じた思いや問いを言葉に対談会を実施しました。当日は市邨高校生50名、教職員・関係者6名の計56名が参加し、「難民の現実具体的に知れた」「自分にできる行動を考えたい」「ユネスコの理念がより大事になっている」といった声が多く聞かれました。市邨高校の支援先カンボジア貧困地域の幼稚園は、本日時点で渡航中止区域継続中、昨年遊具贈呈先の貧困小学校の卒業生は先日のF16爆撃機で死亡しました。また、パレスチナは、暴力と脅迫を行う入植者によって、人権が侵害され国際法違反が続いており、国連はジェノサイドと認定。私たち教員はプロボノとして、未来を担う学生と共に専門家や映画から世界を学び、平和な社会に向けて探究し、平和に貢献していかなければなりません。

名古屋駅徒歩7分

UNESCO WEEK 2025  
第4回 ユネスコウィーク

イベント名 高校生によるSDGsグローバル対談 開催！  
会場名 名古屋経済大学名駅サテライトキャンパス10階ホール  
(愛知県名古屋市中村区名駅4-25-13)

実施日 2025年12月11日(木) 13:00～16:00  
お申込 ユネスコ未来共創プラットフォームHPよりご登録

【特別ビデオメッセージ】  
ユネスコ日本政府代表部  
加納 雄大先生(特命全権大使)

【前半】ゼロからわかる ユネスコ探究活動！  
野口 昇先生(日本ユネスコ協会連盟顧問)  
ユネスコに関する基本書を執筆した野口 昇先生をお招きして、ユネスコの「いろは」を学びます。あなたもユネスコ達人になれるかも？先生も生徒も基礎から学ぶ探究活動学習会を開催！

【後半】難民映画祭パートナーズ「ピース・バイ・チョコレート」  
監督：Jonathan Keijsjer /カナダ / 2021年 / 96分 / ドラマ  
シリア内戦により難民となったテレクは家族と共にカナダへ移住。一家の受け入れ先は、故郷のダマスカスに比べてはるかに小さな街だったが、内戦で富ぶらりになった医学部卒業を目指すテレクは方法を模索する。一方、一流のチョコレート職人だった父親のイッサムは、移住先の人々の支援を掲げチョコレート販売を再開する。家族、平和、そして人々に幸せを運ぶチョコレートを描いた、実在するチョコレート店の心温まるサクセスストーリー。

主催：市邨学園 名古屋経済大学市邨高等学校 ユネスコ平和教育推進部  
共催：日本旅行  
後援：愛知県教育委員会 名古屋市 国際協力機構JICA 国連UNHCR協会  
所在地：〒464-8533 名古屋市中村区北千種3丁目1-37 電話：052-721-0161  
問い合わせ：市邨学園 名古屋経済大学市邨高等学校 ユネスコ平和教育推進部 主任教諭 松野 寛

文部科学省EDU-PORT応援プロジェクト  
UNESCO WEEK 2025 SIDE EVENTS  
UNHCR難民映画祭PARTNERS

生きる強さを学びました

2025UNESCO/日本ESD賞国内選考事業  
第16回ESD賞団体賞・個人賞 優秀賞受賞  
市邨高校UNESCO平和教育推進部



お知らせ 2025.12.12

この記事の関連校 名古屋経済大学市邨高等学校

## 名経大市邨高生らにユネスコの役割解説 中村区で野口さん講演

日本ユネスコ協会連盟顧問の野口昇さん（86）＝東区＝が11日、中村区名駅の名古屋経済大学名駅サテライトキャンパスで講演した。

野口さんは岐阜県出身。旧文部省を経てバリの国連教育科学文化機関（ユネスコ）本部で長年勤務し、北京事務所長などを歴任した。

2度の世界大戦を経て1946（昭和21）年に発足したユネスコの役割について「世界の平和を導く行動する機関」と説明。「戦争は人の心のなかで生まれるものであるから、人の心のなかで平和のとりを築かなければならない」とのユネスコ憲章前文を紹介し、「現生人類のホモ・サピエンスはアフリカ発祥で、私たちは同じ1人にたどり着く。外見は違おうが、みんな同じ道を歩いてきた兄弟姉妹だ」と話し「私たちはわかり合える」と訴えた。

講演は、名経大市邨高校が企画したユネスコについての理解を深めるイベントの一環。同校の生徒ら約50人が聞いたほか、オンラインでも配信した。（中川耕平）

（2025年12月12日 中日新聞朝刊市民総合版より）



ユネスコについて説明する野口さん＝中村区名駅で

# UNHCR難民映画祭パートナーズ-明治学院大学

上映作品：『難民アスリート、逆境からの挑戦』  
 開催日：2025年12月13日（土） 13時30分～16時  
 会場：明治学院大学白金キャンパス2号館2401教室  
 主催：明治学院大学

開始前のショートムービー『リスト：彼らが手にしていたもの』の上映も含め、映画祭は滞りなく進行されました。参加者は24名でした。映画祭は学生の司会進行のもと行われました。映画上映後、条約難民の方をお迎えし、日本で難民として暮らすことになった経緯や現在の生活についてお話を伺いました。その後行われた質疑応答では「日本の市民たちに求めることは何か」、「日本を渡航先へ選んだのはなぜか」などさまざまな質問が寄せられました。時間の制約もあり、質問自体は数名にとどまりましたが、インタラクティブな催しとなりました。学生が作成した補助資料も参加者の映画理解を助けてました。ちらし・補助資料・司会原稿の作成、当日の案内動線をはじめ、学生の自発的な動きのもと円滑で充実した催しとなりました。



映画上映会&トーク  
 UNHCR難民映画祭×難民映画祭パートナーズ 明治学院大学×『難民アスリート、逆境からの挑戦』上映会

開催概要

言語：日本語 参加申込：不要

日時：2025.12.13(土) 13:30~16:00 場所：明治学院大学 白金校舎 2号館3階2401教室

UNHCR難民映画祭 難民映画祭パートナーズ  
 明治学院大学 映画上映会&トーク

2018年度からUNHCR難民高等教育プログラムに参加している明治学院大学では、学校パートナーズ参加校として、毎年映画上映会を開催してきました。2022年の映画祭から「UNHCR難民映画祭」と名称が変更されましたが、引き続き「難民映画祭パートナーズ」として本学で映画上映会を開催してまいります。今年度第1回開会となる今回は、映画『難民アスリート、逆境からの挑戦』を上映いたします。

紛争や政府からの脅威など、様々な理由で祖国を離れ、難民となったアスリートたち。彼らは多くの困難を抱えながらも、難民選手団の一員として2021年の東京オリンピックに挑戦する、生まれ育った国の帰郷を待たないとしても、祖国・家族を思い、強い意志を持ってオリンピックの難民アスリートとなつたドキュメンタリー映画。映画上映後、日本で難民として認定された条約難民の方をゲストスピーカーにお迎えし、映画を観られた皆さんの思いや難民受け入れについて、皆さんと一緒に考えます。

一般公開のイベントとなりますので、ぜひご参加ください。

- 日時：2025年12月13日（土）13:30~16:00
- 場所：明治学院大学白金キャンパス 2号館3階2401教室
- 参加費：無料
- 使用言語：日本語、英語 ※日本語通訳あり
- 申し込み：不要

上映作品：『難民アスリート、逆境からの挑戦』 <https://www.violet-films.com/we-dare-to-dream>  
 イギリス/2023年/98分  
 監督：脚本：フアド・アル・カティープ

主催：明治学院大学  
 共催：国連UNHCR協会



全体の様子



難民研究フォーラム筒井さんによる解説



筒井さんと司会を担当した学生



条約難民ティン・ウィンさんによるトーク

# 映画『グレート・グリーン・ウォール』 上映会 ～歌でつなぐ命と緑8000km！～

上映日:2025年12月17日 15:15~17:30

会場:東洋学園大学

主催:東洋学園大学川口ゼミ 3年

協力:東洋学園大学特別研究費

12月17日(水)に東洋学園大学1号館にて『グレート・グレート・ウォール』の上映会を行いました。企画・運営にあたったのは、東洋学園大学グローバルコミュニケーション学部グローバルコミュニケーション学科3年川口ゼミの7名の学生および井上先生の2年ゼミの有志の方々です。

私たちは、この映画の上映会を「歌でつなぐ命と緑8000km！」と題し、学内外での広報を行いました。また、川口ゼミのメンバーで、クイズを交えながら、サヘル地域の環境破壊やテロなど複合危機の現状や海外へ移民せざるを得ない若者の現状などを説明した後、映画を視聴しました。また井上ゼミのTICAD9での活動についても報告しました。

外部からの参加者も合わせおよそ55名が参加しましたが、参加者達は、背景説明やクイズ、映画の視聴を通じてサヘル地域の複雑に絡み合う現状について理解を深め、遠いアフリカサヘル地域の若者達が置かれた現状に共感を深めることができました。

最後に国連UNHCR協会への募金のお願いもしました。「普段募金はしているものの、具体的にサヘル地域の内容を知ったのは初めてで理解が深まった。」などという声が聞かれました。難民支援を目的とした募金にご協力いただき、3000円が集まりました。

今回の映画上映会の企画・実施を通じて、遠いアフリカ・サヘル地域の現状を理解するだけでなく、私たちに何ができるのかを考え行動することができました。



受付の様子(上)・会場の様子(下)



広報で使用したフライヤー(下)

「難民映画祭パートナーズ上映会」・東洋学園大学 川口ゼミ主催 東洋学園大学特別研究費

日時:12月17日(水)  
開場:14:45  
上映:15:15~17:15  
会場:東洋学園大学 1号館2階 フェニクスホール

入場料:無料!  
豪華景品が当たる!?  
クイズ大会も開催!

～あらすじ～  
マリ出身のミュージシャン・モジャがアフリカ大陸を6000kmにわたって横断する旅に出る。舞台は気候変動や経済不安に苦しむサヘル地域。そこで彼女が目にしたのは命を懸けて「緑の壁」を築き土地と未来を繋ぎ繋ぐと誓った大プロジェクト。カタチのない壁の中で夢を語り続ける人々の希望を音楽と肉に響く感動のドキュメンタリー作品!

監督・脚本: ジャレッド・P・スコット  
製作総指揮: フエルランド・メイレス他  
出演: インナ・モジャ  
ディエゴ・アウディ  
ソリゴイ・ブルース  
ワジモ  
音楽: チャーリー・モール  
配給: ユナイテッドピープル  
2019年イギリス2020年ドキュメンタリー  
GREAT GREEN WALL, LTD

出口は難民支援のために  
国連UNHCR協会への募金を行います。  
皆様のご協力をぜひお願い致します。

映画『グレート・グリーン・ウォール』 上映会  
～歌でつなぐ命と緑8000km!!～

【会場】 東洋学園大学 東京・本郷キャンパス 1号館 2階 フェニクスホール  
【住所】 〒113-0033 東京都文京区本郷1-26-3  
【アクセス】 JR総武線「水道橋駅」東口より徒歩6分  
都営三田線「水道橋駅」A6出口より徒歩3分  
東京メトロ丸ノ内線「本郷三丁目駅」より徒歩5分  
東京メトロ有楽町線「本郷三丁目駅」より徒歩5分

歌と緑で命を繋ぐ映画を通して考える  
私たちにできる国際協力とは?

東洋学園大学 × 難民映画祭 PARTNERS  
後援: 国連UNHCR協会 ©GREAT GREEN WALL, LTD

# 愛知学院大学難民映画祭パートナーズ上映会

上映作品：『学校をつくる、難民の挑戦』

開催日：2025年12月19日（金） 9時30分～11時

会場： 愛知学院大学日進キャンパス 3107教室

主催： 愛知学院大学文学部英語英米文化学科

協賛： 愛知学院大学同窓会けやき会

2025年12月19日（金）に愛知学院大学日進キャンパス3107教室にて『学校をつくる、難民の挑戦』の上映会を行いました。企画・運営にあたったのは、愛知学院大学文学部英語英米文化学科大澤准教授、ヴィック・サリ外国人教師、および大澤ゼミ生（14名）です。当日は、サリ先生（ウガンダ出身）による世界の難民情勢に関する解説を実施し、難民がおかれている状況について参加者間で共有することができました。上映会には学生、教職員、一般の方など、約100名の来場があり、参加者からは、「困難な環境にありながら教育機会を維持しようとする難民の方々の姿勢に心を打たれた」や「今の自分にできることを考えたい」との声を聞くことができました。次年度も継続してこのような上映会を実施できればと考えています。



問い合わせ先 文学部英語英米文化学科 大澤准、ヴィック・サリ

ポスター・チラシ



会場の様子



ヴィック・サリ外国人教師による講演



案内の様子



上映時の様子

# 難民映画祭パートナーズ愛知大学上映会： スクリーンを超えて一難民と共に走る

上映作品：『難民アスリート、逆境からの挑戦』  
開催日：2025年12月20日（土） 13時～16時  
会場：愛知大学名古屋キャンパス講義棟307号室  
主催：愛知大学国際コミュニケーション学部

愛知大学は、12月20日（土）に名古屋キャンパス講義棟307号室にて『難民アスリート、逆境からの挑戦』の上映会を行いました。企画・運営にあたったのは、愛知大学国際コミュニケーション学部永田ゼミの17名の学生たちです。当日はゼミ生3人による映画紹介を行い、本映画での中東・アフリカの難民たちの背景について解説をしました。また、上映後には本ゼミの担当教員(永田道弘愛知大学教授)が「映画、スポーツあるいは政治」の題で講演を行い、オリンピックを題材として映画を撮ることが孕む問題性について理解を深めるとともに、そこに難民アスリートの視線を誘導することで、新たな展開が可能になることを学びました。上映会には学生49名、一般の方2名の計51名の来場があり、参加者からは「難民問題をスポーツという視点から考える貴重な機会になった」や「困難な状況でも挑戦し続ける姿に勇気をもらった」といった声が聞かれました。

